

データ処理Ⅱ 課題 1

【課題】

日本の衆議院小選挙区制度について、各都道府県に議員定数を配分することを考える。現行定数は 300 人だが、各自「学籍番号の下 2 桁+250 人」を定数として計算する。例えば、学籍番号が a7p21932 だとしたら、 $32+250=282$ 人を衆議院定数として議員定数配分を行う。都道府県の人口データは、授業で用いたのと同じ「平成 17 年国勢調査人口（確定値）」を使用すること。定数配分の方法は、現行の衆議院小選挙区制で行われているのと同じ「1+最大剰余法」を用いて計算せよ。

シートは「sheet1」のみを残し、「sheet2」「sheet3」は削除する。「sheet1」の名前を「学籍番号+名前」とする。例えば、学籍番号が a7p21932 で名前が文教太郎ならば、シート名を「a7p21932 文教太郎」とする。

シートの B 列～E 列については、必ず以下の形式に従って表を作成・計算すること。

- ☆ C2 に“議員定数”と記述し、C3 にその数値を代入する。
- ☆ B4,C4,D4,E4 にそれぞれ“都道府県名”，”人口”，”人口比例”，”配分数”と記入し、
- ☆ B5～B51 に「北海道」～「沖縄県」の都道府県名、
- ☆ C5～C51 に各都道府県の人口、
- ☆ D5～D51 にあなたの『議員定数』を人口比例した場合の都道府県の取り分を計算させ、
- ☆ E5～E51 に「1+最大剰余法」による定数配分数を計算させた結果を記入する。
- ☆ B52 に”合計”と記入し、C52～E52 に、それぞれの合計を計算させる。

B 列～E 列については、罫線・背景色などを見やすいように設定すること。背景色については設定しすぎると見にくくなるので過度な装飾は避けるように。

なお、最終的な結果（E5～E51）を計算するために G 列以降の列は自由に使って良い。F 列は何も記入せずにあけておくこと。

【参考サイト】

- ★ 国勢調査人口統計データは「総務省 統計局 HP」から入手できる。

【提出方法ほか】

- ★ 提出方法：指定フォルダに、指定期限までに、作成した Excel ファイルを、指定したファイル名で保存する。
- ★ 提出期限：11 月 9 日（金）19:00
- ★ 提出フォルダ：public 内にある以下のフォルダ
jugyo ¥ joho ¥ 経営情報学科 堀田 ¥ 07 データ処理Ⅱ ¥ 課題 1
- ★ 提出ファイル名：07dat2_学籍番号_rep1.xls
例) 学籍番号が a7p21932 ならば、ファイル名を「07dat2_a7p21932_rep1.xls」とする
- ★ 注：提出期限内であれば、何度提出（何回ファイルを上書き保存）しても良い。